

## やまなしもぎ

平野直 再話

太田大八 画

福音館書店 1977年 1200円



昔、お母さんと3人の兄弟がいて、病気のお母さんのために兄弟は奥山にやまなしをとりに出かけました。上の2人は、沼の主に飲み込まれてしまいます。末の弟は途中で会ったばあさまの頼みをきき、無事にやまなしをとり、沼の主を退治して、兄たちを助け出します。「ゆけっちゃ かさかさ」「ゆくなっちゃ がさがさ」といったくり返しが耳に心地よい昔話です。落ち着いた色調の絵もお話に合っています。

## ゆかいなかえる

ジュリエット・キープス 文・絵

いしいももこ 訳

福音館書店 1964年 900円



ゼリーのような卵からおたまじゃくしがかえり、4匹のかえるになりました。かえるたちは、もぐったり、競争したり、かたつむりのかくしっこをしたりして遊びます。かえるを狙うさぎが来たならばすの葉の陰に隠れ、かめが来たらかめの背中に乗って笑います。ゆかいなかえるたちの暮らしぶりが、水色、緑、白、黒の4色のみののびやかな絵で描かれています。短くてリズムカルな文章も楽しいです。

## よるのおるすばん

マーティン・ワッデル 文

パトリック・ベンソン 絵

山口文生 訳

評論社 1996年 1300円



3羽のフクロウのひながいました。ある夜、目を覚ますとおかあさんがいません。3羽は考えます。「かりにいったのよ」「ごはんとってきてくれるんだ」「ママにあいたいよう！」しかし、おかあさんはなかなか帰ってきません。心細く身を寄せあって待っていると、やっとおかあさんが帰ってきました。留守番の時の心細さ、おかあさんの帰ってきたときの安心感や喜びが、伝わってきます。